

会 告

◀ 土木学会・その他行事案内 ▶

月 日	行 事	備 考
6月15日(月)	昭和39年度中部支部研究発表会申込締切	6号 2ページ参照
6月16日(火)	日本工学会第9回見学会	5号 7 "
6月20日(土)	第8回材料試験連合講演会申込締切	6号 7 "
6月20日(土)	関東支部第2回学生のための映画会	6号 2 "
6月27日(土)	東日本高校土木研究会と産学懇談会開催	6号 2 "
6月27日(土)	第1回土質化学に関する特別講演会	5号 5 "
6月30日(火)	水工学に関する夏期研修会申込締切	6号 5 "
6月30日(火)	構造用軽量コンクリートに関する申込締切	6号 7 "
6月30日(火)	第2回水質汚濁会議申込締切	5号 4 "
6月4日(土)	第14回応用力学連合講演会論文抄録提出締切	5号 6 "
6月15日(水)	災害科学に関する合同総合講演会講演要旨締切	5号 6 "
7月25日(土)	第7回地震工学研究発表会論文申込締切	6号 6 "
7月31日(金)	第11回海岸工学講演会講演申込締切	6号 7 "
そ の 他	土木学会・日本建築学会関係コンクリート用語の統一について 国土開発映画コンクリート作品募集について 昭和39年度夏期講習会開催について 構造物、特に高層長大スパン構造に加わる外力と構造設計に関する研究発表会論文募集 第8回国際水工学コース 国家公務員採用上級試験について	6号 3 " 4号 2 " 6号 6 " 6号 2 " 6号 8 " 6号 8 "

創立 50 周年記念事業資金ご寄附のお願い

会 員 各 位

社団法人 土 木 学 会

会 長 山 本 三 郎

土木学会創立50周年記念事業の計画につきましてはすでに会告および趣意書によって御高承のことと存じます。この計画に要する資金の一端を正会員および特別会員にご寄附を賜うようお願いいたしましたところ、多数の応募をいただき感謝いたしております。

つきましては、一応の期限を過ぎましたが、ご多忙のため失念されている向も相当あるやに存じますので、未応募の方々は改めて振替用紙をご送付いたしましたから何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、ご寄附の金額は、いかほどでも結構であります。はなはだ潜越ながら下記の標準によって、お願いいたします。

正 会 員	30才未満の方	500円
	30才以上の方	1000円
	40才以上の方	1500円
	50才以上の方	3000円

特別会員については別にお願いたします。

関 東 支 部 行 事 案 内

第2回学生のための映画会

1. 日 時：1964年6月20日（第3土曜日）
2. 場 所：土木学会会議室（東京都新宿区四谷1丁目 外濠公園入口）
3. 上映映画：①日本の旅 ②黒部溪谷 ③ダム
（一般会員の観覧を歓迎いたします）

中 部 支 部 行 事 案 内

昭和39年度土木学会中部支部研究発表会発表申込みについて

発表希望者は研究発表題目、勤務先、連絡先を明記のうえ、1964年6月15日（火）までに下記あてお申込み下さい。

名古屋市中区南外堀町6の1 名古屋市土木局道路建設課課長 三 浦 侃

構造物、特に高層長大スパン構造に加わる 外力と構造設計に関する研究発表会論文募集

（第11回 橋梁・構造工学研究発表会）

今年度は、下記要項により、標題の研究発表会を開催いたします。論文提出希望者は、ふるってご応募下さい。

1. 共 催：日本学術会議——橋梁・構造工学研究連絡委員会、土木学会、日本建築学会
2. 日 時：1964年11月27日（金）
3. 会 場：東 京
4. 募集規定：
 - (1) 論文内容：前年度本研究発表会に引き続き、近年注目をあびつつある、高層ならびに長大スパン構造につき、それらに働らく外力とその構造設計に関する研究
 - (2) 申込方法：9月30日（水）締切、B5判適宜用紙、1枚に論文題目、研究者氏名（共同研究の場合は講演者に○印を付ける）、所属学会、勤務先、職名、西暦生年月日、連絡先を記し、下記原稿を添えて申込んで下さい。（両学会会員以外は土木学会に）
 - (3) 原 稿：400字詰原稿用紙24枚以内（図表、写真を含む）
 - (4) 採 否：日本学術会議——橋梁・構造工学研究連絡委員にご一任下さい。
 - (5) そ の 他：発表会終了後、適宜論文を指名、欧文原稿の提出を依頼し、海外に配布する予定。

東日本高校土木研究会と産学懇談会開催について

6月27日に東日本高等学校土木教育研究会では建設業関係者と学校側産学懇談会を行ないますので、詳細は土木学会高校土木研究委員会へご連絡下さい。

土木学会・日本建築学会関係コンクリート用語の統一について

土木学会と日本建築学会とにおいて、コンクリート用語が異なっていることは、実務上にも、研究上にも非常に不便な問題となっている。

この実状を改善するため、両学会のコンクリート委員会でその統一化を企画し、下記構成による合同委員会を設置し、去る昭和 38 年 9 月 17 日より 4 回にわたってこの問題を審議検討した。しかし用語は元来、短日時に完全に統一することは困難なことであるので、今回はその方針として、1) 統一することによって他に大きな影響を与えるもの、2) 明らかに土木・建築本来の性格の相違から用語が異なっているもの、等については無理に統一を行わず、従来通り併用することにした。また、今後は両学会において、新用語を含めて、なるべく統一した形にもって行くよう努力することを申合せた。

以上のような検討の結果、両学会のコンクリート用語は、下表の通り使用することに決定したので、会員諸氏におかれても、この趣旨にご賛同いただき、今後ともこの統一化についてご協力をお願いする次第である。

昭和 39 年 4 月

土 木 学 会
日 本 建 築 学 会

コンクリート用語統一委員会構成

土木学会 国分 正胤 谷藤 正三 山田 順治 河野 通之 樋口 芳朗 野口 功
日本建築学会 浜田 稔 西 忠雄 亀田 泰弘 東 洋一 小倉弘一郎 本岡順二郎

統一用語	土木学会用語	日本建築学会用語	備 考
	無筋コンクリート標準示方書 鉄筋コンクリート標準示方書	建築工事標準仕様書 鉄筋コンクリート構造計算規準	併 用
	配 合	調 合	併 用
表面乾燥飽水状態	表面乾燥飽和状態	表面乾燥内部飽水状態	
細骨材率	絶対細骨材率	砂 率	天然細骨材の場合には砂率という語を用いてもよい
骨材の表乾比重 骨材の絶乾比重	骨材の比重	骨材の見掛比重	骨材の状態に応じて表乾と絶乾に分け表現を正確にした
単位水量	単位水量	有効水量	はっきり表現したいときは単位有効水量としてもよい
ワーカビリティ	ウォーカビリティ	ワーカビリティ	
コンシステンシー	コンシステンシー		
プラスチックチー	プラスチックチー		
	か ぶ り	か ぶ り 厚 さ	併 用
	粗骨材の最大寸法	骨材の大きさ	併 用
有機不純物	有機物	有機不純物	
	供 試 体	試 験 体	併 用
配 合 強 度 合 強 度	目標とする圧縮強度	調 合 強 度	土木では目標とする圧縮強度を配合強度と称する
設計基準強度	部材の設計において基準とした材令 28 日におけるコンクリートの圧縮強度	所 要 強 度 コンクリートの 4 週設計強度	
練 置 き		練 置 き	
練 直 し	練 り 直 し	練 直 し	
練 返 し	練 り 返 し	練 返 し	
練 方		練 方	
練 り ま ぜ	練 り 混 ぜ	混 練 り ま ぜ	

統一用語	土木学会用語	日本建築学会用語	備 考
ミ キ サ	ミ キ サ	ミ キ サ ー	機械用語に限って建設機械用語に統一する
	コンクリート打ち	打 ち 方	併 用 ただし「打ち方」は「打方」とする
打 込 み	打 込 み	打 込 み	
シ ュ ー ト	シ ュ ー ト	流 し と い	
	寒中コンクリート	寒冷期および極寒期のコンクリート施工	併 用
混 和 材 料	混 和 材 料	混 和 物	
混 和 剤	混 和 剤		薬品として用いる混和材料をいう
混 和 材	混 和 材		材料として用いる混和材料をいう
海水の作用をうけるコンクリート	海水の作用をうけるコンクリート	海水中のコンクリート	
	振 動 締 固 め	振 動 打 ち	併 用
内 部 振 動 機	内 部 振 動 機	差 込 み 振 動 機	
試 し 練 り	配合を定めるための試験	試 し 練 り	
打 継 ぎ	打 継 ぎ	打 継 ぎ	
打 継 目	打 継 目		
打 継 面	打 継 面	打 継 ぎ の 面	
	計 量 装 置	計 量 設 備	併 用
鉄 筋 の あ き	鉄筋の最小純間隔	鉄 筋 の あ き	
凍 害	凍 害	凍 害 の 被 害	
	支 保 工	支 柱	併 用
作 業 区 画	作 業 区 画	作 業 区 画	
打 込 み 区 画		打 込 み 区 画	
	責 任 技 術 者	係 員 記	併 用
	断面の全部の高さ	全 せ い	併 用
	有 効 高 さ	有 効 せ い	併 用
	帯鉄筋 単筋	帯鉄筋 単筋	併 用 その他鉄筋の名称についてはこれに準ずる
組 立 て	組 立 て	組 立	
フ ッ ク	フ ッ ク	か ぎ	
	ス タ ー ラ ッ プ	あ ば ら 筋	併 用
	版	ス ラ プ	併 用
独立フーチング	独 立 フ ー チ ン グ	独立フーチングの基礎	建築の「複合フーチングの基礎」「連続フーチングの基礎」はそれぞれ「複合フーチング」「連続フーチング」と称する
べ た 基 礎		べ た 基 礎	
い か だ 基 礎	い か だ 基 礎		

水工学に関する夏期研修会

水理学に関する最近の高度の知識を研鑽し、その水工技術への応用を図るため、水理委員会および関西支部の共催のもとに、下記の要領により第1回水工学に関する夏期研修会を開催致します。関係各位の絶大なご協力をお願い致します。

1. 日 時：(A)コース 1964年7月20日(月)～25日(土)
(B)コース 1964年7月27日(月)～8月1日(土)
2. 場 所：京都市左京区吉田本町 京都大学工学部土木総合館201教室(市電・市バスいずれも百万遍下車)
電話 京都(77)8111
3. 研修内容の程度：大学院修士・博士コース程度
4. 題目と講師および日程表：

(A) コース

日 時	20日(月)	21日(火)	22日(水)	23日(木)	24日(金)	25日(土)
午前 8.30～12.00	64-01 開水路流れの基礎理論 京都大学工学部教授 工博 岩佐義明			64-03 河床変動 建設省土木研究所河川部長 工博 吉川秀夫		特別講演II および修了式
午後 2.00～6.00	64-02 水文統計 京都大学防災研究所教授 農博 角屋 陸		特別講演I および懇談会 I	64-04 流出解析 京都大学防災研究所教授 工博 石原安雄		見学(A) 京都大学防災 研究所
6.30～8.30			懇 親 会			

(B) コース

日 時	27日(月)	28日(火)	29日(水)	30日(木)	31日(金)	1日(土)
午前 8.30～12.00	64-05 波 動 論 北海道大学工学部教授 工博 岸 力			64-07 高 潮 大阪大学工学部助教授 工博 室田 明		特別講演IV および修了式
午後 2.00～6.00	64-06 波浪予知 運輸省港湾技術研究所 設計基準部長 工博 井島武士		特別講演III および懇談会 II	64-08 海岸堤防 京都大学防災研究所教授 工博 岩垣雄一		見学(B) 大阪大学・大 阪市立大学
6.30～8.30			懇 親 会			

特別講演の講師

- | | |
|--------------------|-----------|
| I：京都大学工学部教授・防災研究所長 | 工博 石原 藤次郎 |
| 東京大学工学部教授 | 工博 嶋 祐之 |
| KK東京鉄骨橋梁製作所常務 | 工博 横田 周平 |
| II：京都大学理学部教授・理学部長 | 理博 速水 頌一郎 |
| III：大阪市立大学工学部教授 | 工博 永井 莊七郎 |
| 中央大学理工学部教授 | 工博 林 泰造 |
| IV：京都大学工学部教授 | 理博 山田 彦児 |

5. 定 員：A, B 各コースとも 60 名程度
6. 参 加 費：1 コースにつき 5 000 円(ただし、テキスト代・懇親会・見学会の費用を含む)
7. 申 込 方 法：受講希望者は勤務先、連絡先、氏名、およびコース名(AまたはB)を明記のうえ、1 コースにつき参加費 5 000 円をそえてお申込み下さい。
8. 申 込 先：土木学会関西支部(大阪市天王寺区堀越町・天王寺ステーションビル4階)
電話 大阪(716)7881 振替口座大阪 82599 番)
9. 申 込 期 限：1964年6月30日(火)先着順定員締切
10. そ の 他：テキストのみの頒価は未定です(追って会告)。

昭和 39 年度夏期講習会開催について

かねてから、土木学会トンネル工学委員会では、トンネル標準示方書の制定につき審議を重ねており、その本文を本年 3 月に刊行いたしました。

それについて、只今、解説の作成に鋭意努力を続けております。

本年度の夏期講習会は、この標準示方書の制定を機会に、“トンネル工学”をテーマにとりあげました。

従来、トンネル工事の示方書については、各方面でそれぞれ独自の考え方で作成されておりましたが、この標準示方書は、各機関における従来の示方書の共通点、現在の技術程度などを考慮して作成されたものであり、今後のトンネル調査、設計、施工上、関係技術者が必要とすべきものと存じますので、ふるってご参加下さるようお願い申し上げます。

なお、本講習会についての要項は、大略下記のとおりですが、タイムスケジュールなどの詳細は次号において確定したものをお知らせする予定です。

記

1. 日 時：1964 年 8 月 27 日（木）、28 日（金）の 2 日間
2. 場 所：豊島公会堂（豊島区池袋東 1 の 19）
3. 参加費：会員 1500 円（含教材費） 非会員 2000 円（含教材費）
4. 申込方法：次号添部の申込書に住所、氏名、勤務先を明記の上、8 月 10 日までに会費を添えて、土木学会トンネル工学委員会宛お申込み下さい。

なお、お申込みの際、トンネル標準示方書に関してご質問がありましたら、その要旨を添付して下さい。

5. 講演内容：（いずれも仮題）
 1. トンネル標準示方書について
 2. トンネル標準示方書調査編について
 3. トンネル標準示方書設計編について
 4. トンネル標準示方書施工編について
 5. 青函トンネルについて
 6. 新丹那トンネルについて
 7. 羽田海底トンネルについて
 8. 富士川用水導水トンネルについて
 9. ANFO 爆薬について

第 7 回地震工学研究発表会論文募集

例年の通り、土木学会耐震工学委員会では、下記により標記研究発表会を開催いたしますので、発表希望者はふるってご応募下さい。

1. 日 時：1964 年 10 月
2. 場 所：土木学会会議室
3. 募集規定：
 - (1) 論文内容：理論、実験、研究、耐震実験実例など
 - (2) 申込方法：7 月 25 日（土）までに、題目、講演者氏名、勤務先を明記し、土木学会耐震工学委員会にお申込み下さい。
 - (3) 前刷原稿締切：8 月 31 日（月）

講演内容がわかるように講演概要はオフセット印刷とします。原稿はなるべく研究の考え方を主とし、原稿の長さは 1 題目 2 ページ以内（図表を含み 約 2800 字）を所定の原稿用紙に墨書きにして下さい。特に超過する場合は、超過 2 ページまでは 1000 円の実費を原稿提出の際に添付願います。原稿の採否は、土木学会耐震工学委員会にご一任下さい。なお、講演時間は 15 分～20 分（質問時間を含まず）の予定です。

第 11 回 海岸工学講演会講演募集

第 11 回海岸工学講演会は 11 月 26～27 の両日別府市において開催することになりました。講演ご希望の方はつぎの要領によりふるってご応募下さい。

1. 日 程：1964 年 11 月 26 日 (水)～27 日 (木) 予定
2. 講演申込期日：1964 年 7 月 31 日 (金)
3. 講演原稿締切：1964 年 8 月 15 日 (土)
4. 講演申込みおよび原稿について：
 - ① 講演申込みは 7 月 31 日 (金) までに講演題目・著者名 (連名の場合は登壇者に○印を付ける)，予定 ページを記入して下記申込先へお申込み下さい。
 - ② 今回より同じ題目の講演を一緒に 2 編以上提出しても受けません。
 - ③ 原稿 1 編の長さは原則として刷り上り 6 ページ以内 (400 字詰原稿用紙 35 枚以内・図表・写真をふくむ) とします。
 - ④ 原稿の内容により 6 ページ以内に収録することが困難な場合は著者の希望により 10 ページまでの超過を認めますが，この場合は著者に超過 1 ページにつき 1 500 円負担していただくか，超過 1 ページあたり 講演集を 2 冊 お買上げいただきます。
 - ⑤ 図面は必ずスミ入れし，説明文字は鉛筆書きにしてください (図面のスミ入れが困難な場合は費用をご負担いただければ当方でいたします)。
 - ⑥ 原稿には必ず超過希望の有・無を明記して下さい。
 - ⑦ 別刷は希望により実費で差し上げますので原稿に必要部数をご記入下さい。
 - ⑧ 著者校正ご希望の方はその旨明記して下さい。
5. 申 込 先：東京都新宿区四谷一丁目 土木学会海岸工学講演会係

構造用軽量コンクリートに関するシンポジウム開催について

日本 A. C. I. では下記により構造用軽量コンクリートに関するシンポジウムを開きますので多数お申込み下さい。

1. 日 時：1964 年 11 月下旬
2. 場 所：東京都内 (未定)
3. 論文提出申込期限：1964 年 6 月 30 日 (火)
4. 論文募集要領：論文提出ご希望の方は 6 月 30 日までに論文題名，氏名に内容梗概 (1 000 字以内) を付けて日本 A. C. I. 事務局に申込んで下さい。その他詳細は日本 A. C. I. 事務局へご連絡下さい。
5. 日本 A. C. I. 事務局：東京都中央区日本橋本町 3 の 5 ・ワカ末ビル ケンメイヤー技術 KK 電話 (270) 3067

第 8 回材料試験連合講演会講演募集

日本学術会議材料試験研究連絡委員会および関係学協会の共催により標記の講演会が開催され，下記のとおり講演を募集しておりますので多数ご応募下さい。

1. 日 時：1964 年 9 月 9 日 (水) ～ 10 日 (木)
2. 会 場：京都大学工学部講義室
3. 講演申込：①土木学会会員は本学会を通じて申込むこと。
 - ②講演内容はすでに発表されたものでも差しつかえないが，最近の研究に属するのが望ましい。なお，研究内容は材料の諸物性，諸性質の測定および試験ならびに材料の適切な使用に関する研究を包含する。
 - ③講演時間は約 20 分 (討論をふくむ) の予定。
 - ④講演の採択などは材料試験連合講演会運営委員会に一任されたい。
 - ⑤申込用紙は B5 判とし，つぎの事項を必ず記載すること。

㊤講演題目 ㊦梗概約 200 字 ㊧講演部門名 ㊨講演ならびに連名者の各氏名、勤務先、通信先、年令（連名の場合には登壇者に○印をつけること）㊩講演題者氏名、勤務先には英文を付記すること ㊪スライドの有無（大きさは 35 mm）㊫欧文論文集へ投稿希望の有無

注 第 1 部 金属材料 第 2 部 非金属材料（有機物、無機物） 第 3 部 一般（材料試験機その他）

4. 申込締切：1964 年 6 月 20 日（土）
 5. 講演前刷：聴講者のテキストとし、あわせて講演時間の短縮、掛図などの節約のため、講演者全部の講演前刷を作るので、講演者は前刷原稿を必ず期日までに所属学会へ（参加学会会員以外の方は申し込んだ幹事学会へ）提出すること。
 - ①講演前刷原稿提出期日 7 月 20 日（月）
 - ②前刷原稿は規定の原稿用紙 8 枚以内（図表、写真を含めて邦文で約 2600 字）に明りように墨書し、なるべく余白を避けるように留意のこと
 - ③所定原稿用紙は講演申込み者に所属学会から送り、所定用紙以外に書いた原稿は受け取れない。
- (付 記)
- ①発表論文は Paocedings of the Eighth Japan Congress on Testing Materials にのせ、諸外国にも頒布の予定である。
 - ②本論文集に掲載される論文は今回発表されたもので、欧文で未発表のものに限る。
 - ③投稿希望者は別に送られる規定原稿用紙に執筆し、講演会当日までに日本材料学会（京都市左京区吉田泉殿町 1 番地の 101 電話京都 77 局 1912 番）に提出すること
 - ④当日以降の提出原稿は受理しない。また、不備な原稿は返却することがある。

第 8 回国際水工学コース (International Course in Hydraulic Engineering)

第 8 回国際水工学コースはオランダのデルフトにおいて 1964 年 10 月 22 日より 1964 年 9 月 12 日まで開催される旨の連絡がありましたので、参加ご希望の方または詳細を知りたいかたは土木学会へご連絡下さい。また、これと同時に第 5 回衛生工学コース (European Course in Sanitary Engineering) も開催されます。

なお、申込の締切は 1964 年 8 月 1 日ですのでご注意ください。

国家公務員採用上級（甲種・乙種）試験について

昭和 39 年度国家公務員採用上級（甲種・乙種）試験は下記のように行なわれますのでお知らせします。なお、詳細は東京都千代田区霞ヶ関 1 の 2、人事院事務総局（TEL 581-5311）へお問合せ下さい。

受付期間	試 験	甲 種	乙 種	日 時	試 験 地	合格者発表日	
6 月 1 日 ～ 6 月 22 日	第 1 次 試 験	専門試験第 1 部（択一式）		7 月 18 日（土）	午後 0 時 30 分～4 時 15 分 午後 9 時 00 分～0 時 10 分	札幌市、室蘭市、仙台市、秋田市、盛岡市、東京都、長野市、新潟市、名古屋市、金沢市、大阪市、京都市、広島市、松江市、岡山市、高松市、松山市、福岡市、熊本市、鹿児島市	8 月 27 日（木） 人事院各地方 事務所
		教養試験（択一式）		7 月 19 日（日）	午後 1 時 10 分～4 時 20 分 午後 9 時 00 分～11 時 40 分		
		専門試験第 2 部（記述式）		7 月 20 日（月）	午後 0 時 40 分～3 時 20 分		
			総合試験第 1 部（択一式）	—			
		総合試験第 2 部（記述式）	—				
	第 2 次 試 験	口 述 試 験		9 月 上 旬	札幌市、仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市	9 月 18 日（金） 人事院各地方 事務所	
		身 体 検 査					

関西支部テキスト頒布について

建設工事と高分子材料 体裁：B 5 版 115 頁 頒価 400 円 送料 60 円

水理公式集の解説と例題 体裁：B 5 版 211 頁 頒価 500 円 送料 100 円

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部（振替口座 大阪 82599 番利用）へお申込み下さい。